

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理演習 2		選択	1	4	前期 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾 他	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>公認心理師の業務に必要な心理支援に関して、知識および技能の基本的な水準の修得を目的とする。「心理実習」を終了して、実習前後での体験から導かれる自己学習の変化を振り返り、実習内容の定着を目指し、知識と技術の統合を図る。</p> <p><概要>役割演技 (ロールプレイ) と事例検討を通じて、学習目標 (行動目標) に記載の項目について、実習内容を踏まえて体験的な学びを深める。心理に関する支援を要する者における、コミュニケーション・心理検査・心理面接・地域支援に係る情報の素地・ニーズを理解して支援計画を作成する。また、多職種連携・地域連携や職業倫理、及び法的義務への理解についても学ぶ。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ロールプレイ、事例検討)				
学習上の助言	心理実習 (学外実習) の後段階として、知識を行動として実行する意義と困難さを模擬的に体験学習で振り返るものである。公認心理師を志す者として、受け身ではなく、主体的かつ意欲的に体験学習に参加して、同時に思案したことを言語化することが重要である。原則、欠席は認めない。				
教科書	必要に応じて紹介する。				
参考書	必要に応じて紹介する。				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能を専門的に表現できる。			HC(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)	
②	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成を検討できる。			HC(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)	
③	心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチが理解できる。			HC(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)	
④	心理支援において多職種連携及び地域連携の必要性、重要性が理解できる。			HC(2)、(3)、(4)、(5)、(6)	
⑤	公認心理師としての職業倫理及び法的義務が理解できる。			HC(1)、(2)、(3)、(4)、(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：心理実習の総括的な振り返り	講義・演習	心理実習を総括的に振り返り、演習内で重点的に取り組む課題を知る。	2	
2	心理支援のコミュニケーション技法演習① (実習中の課題)	講義・演習	授業での体験を振り返り、テーマ(1)のミニレポートを作成する。	4	
3	心理支援のコミュニケーション技法演習② (実習中の課題)	講義・演習	授業での体験を振り返り、テーマ(1)のミニレポートを作成する。	4	
4	心理支援のコミュニケーション技法演習③ (実習中の課題)	講義・演習	授業での体験を振り返り、テーマ(1)のミニレポートを提出する。	4	
5	実習を踏まえた心理アセスメントの要点と支援計画の立案手法①	講義・演習	授業での体験を振り返り、テーマ(2)のミニレポートを作成する。	4	
6	実習を踏まえた心理アセスメントの要点と支援計画の立案手法②	講義・演習	授業での体験を振り返り、テーマ(2)のミニレポートを提出する。	4	
7	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習①	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(1)のミニレポートを提出する。	4	
8	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習②	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(2)のミニレポートを提出する。	4	
9	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習③	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(3)のミニレポートを提出する。	4	
10	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習④	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(4)のミニレポートを提出する。	4	
11	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習⑤	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(5)のミニレポートを提出する。	4	
12	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習⑥	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(6)のミニレポートを提出する。	4	
13	実習で学び得た事例の理解と心理面接の演習⑦	講義・演習	授業での体験を振り返り、施設(7)のミニレポートを提出する。	4	
14	実習を踏まえた公認心理師の職業倫理と法的義務の検討	講義・演習	授業での体験を振り返り、テーマ(3)のミニレポートを提出する。	4	
15	まとめとフィードバック	講義・演習	全体の学びをまとめる。授業後に統合レポートを提出する。	6	

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	85	0	0	15	100
総合力指標	知識・技術力	0	15	0	0	5	20
	思考・推論・創造する力	0	15	0	0	5	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	15	0	0	0	15
	コミュニケーション力	0	10	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	15	0	0	0	15
	問題を発見・解決する力	0	15	0	0	5	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	体験学習（実習）の振り返りを記したミニレポートを課し（演習テーマ3つ、施設7か所の分）、7点満点で評価する（7点×10回＝70点配点）。授業最後に演習で得た学びを全てまとめた統合レポートを課し、15点満点で評価する。				レポートを返却し、解説とフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	受講時の主体的かつ意欲的な態度・姿勢を評価する。課題の遅延提出や受け身的で質疑応答の乏しい態度・姿勢は評価を減じる。				受講時に都度フィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	瀧口 綾、高田 毅						
教員の実務経験	鈴木 真吾：臨床心理士また公認心理師として21年の臨床経験を有する。 瀧口 綾：臨床心理士また公認心理師として24年の臨床経験を有する。 高田 毅：臨床心理士また公認心理師として17年の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	臨床現場での経験に加えて、自身が受けてきた研修・ワークショップ、また心理職及び関連する他職種に対する指導経験（スーパーバイズ、コンサルテーション）での経験を活かして、公認心理師の基本的な知識と技術を統合する手助けを行う。						
そ の 他	「心理演習1」「心理実習」の単位取得を履修要件として、公認心理師取得希望者は必ず履修すること。2025年度は、対象学生の入学区分・履修モデルによらず、前期（集中）の1回開講とする。また、大学が公表している感染症対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。						